# ICL-Channelsとは?

国内6大学がコンソーシアムを形成し、留学生と国内学生の協働を授業･活動に組み入れた国際共修の教育実践やその評価を共有するプロジェクトです。国際教育の高度化、国際的通用性の向上を図りながら国内外に横展開することを目指します。本事業は、『国際共修ネットワークによる大学教育の内なる国際化の加速と世界展開』として、2021年度に文部科学省「大学の国際化促進フォーラム選定プロジェクト」に採択されました。

主な取り組みは、本事業の連携大学間でオンラインを活用した国際共修科目の単位互換授業交流（ICL授業交流）を実施することでした。また、国際共修の課外活動も支援するために、連携大学が実施する国際共修課外活動のイベントにお互いの学生が参加しやすいよう情報共有を積極的におこないました。さらに、教職員のFD（ファカルティ･ディベロップメント）として、国際共修の教授法に関する改善や国際共修授業に参加した学生の学習効果の検証をおこなうシンポジウムも開催しました。これらの活動を通して、国際共修の教授法の高度化を推進するとともに、国際共修の様々な取り組みが円滑に進むようなプラットフォームを構築しました。

### 第1フェーズ[2021年度]

- 連携大学共通のICL授業交流実施要項、シラバス、学生向けウェブサイト等を作成
- 連携大学の学生及びその学術交流協定校の留学生を特別聴講学生として受け入れ、単位を付与するための教務上の制度を制定
- シンポジウムを開催し活動報告及びプロジェクトにおける課題と対策について話題提供

### 第2フェーズ[2022年度]

- ICL授業交流を開始し、6大学計のべ**26科目**を開講し、留学生を含む**80名**が国際共修科目を履修
- 国際共修実践者間のスキルアップFDを実施
- シンポジウムを開催し国際共修の学習効果について報告

### 第3フェーズ[2023年度]

- ICL授業交流を継続して実施し、6大学計のべ**24科目**を開講し、留学生を含む**70名**が国際共修科目を履修
- 連携大学合同の教職員･学生研修を実施するとともに国際共修サポーターの育成を推進
- 連携大学における本事業の教育の国際化等へのインパクトやICL授業交流参加学生の学習効果等に関する効果検証を実施

## 主な成果

◎連携大学間で相互履修可能とした国際共修科目の代表例（一部抜粋）

| | 大学名 | 授業科目 | 使用言語 | 学際領域* |
|---|---|---|---|---|
| 2022 | 東北大学 | 仙台地元企業について学び、課題を解決しよう | 英語 | 地域社会との協働 |
| 2022 | 福島大学 | Understanding Post-Disaster Fukushima: 福島を包括的に理解する | 英語 | 震災･復興 |
| 2022 | 東京外国語大学 | 日本の現在を知る2：現代日本のジェンダー入門 | 英語 | SDGs |
| 2023 | 信州大学 | グローバル人材論（「グローカル」マインド養成） | 日本語 | 産学連携･リーダーシップ |
| 2023 | 大阪大学 | 日本のメディアとコミュニケーション | 英語 | 日本文化･社会 |
| 2023 | 神戸大学 | グローバルリーダーシップ養成基礎演習 | 日本語/英語 | 異文化理解 |

*学際領域は次の6つに分かれています。 ①SDGs ②震災･復興 ③異文化理解 ④産学連携･リーダーシップ ⑤日本文化･社会 ⑥地域社会との協働

◎国際共修シンポジウムおよびFD/SDセミナー

| イベントタイトル | 開催日 | 開催方法 | 参加者数 |
|---|---|---|---|
| 第1回ICL-Channelsシンポジウム | 2022年3月2日（水）15:00 | オンライン | 約140名 |
| FD「国際共修の実践と課題」 | 2022年11月18日（金）17:00 | オンライン | 約35名 |
| 第2回ICL-Channelsシンポジウム | 2023年3月2日（木）13:00 | オンライン | 約80名 |
| ICL-Channels国際共修合同セミナー | 2023年8月25日（金）･26日（土） | 対面（白馬ノルウェービレッジ）およびオンライン | 約40名 |

## 本事業の成果と今後の課題

次ページから続く4つの調査により、国際共修を経験した学生およびICL-Channels事業に参加した連携大学が挙げた成果と課題は以下の通りでした。

学生は、国際共修は多様な文化･言語的背景の学習者が集い、授業で設定された目標に向かって協働する、双方向性のある学習活動と捉えていました。そのような学習者中心の自由度の高い学習活動により、学生たちは**多文化事態でのコミュニケーション力、自身の価値観や常識などで他者の考えを即断しない開放的な姿勢、母語を含めた言葉の使い方を工夫して相手とより深い意思疎通を図ろうとするスキル**、そしてそれら活動を通して**より多面的で深い文化的知識**を得ることができていました。そして、このような学習機会は、学びがいのある課題に**他者と協働して取り組みたい、専門領域だけでなくもっと幅広い教養を得たい、学習活動を通してより多様な友人関係を築きたい、主体的に学ぶことで視野を広げたい**という学習者の希望に対し、ある程度応えられる環境を与えられていることが、学生インタビューを通して分かりました。

本事業連携大学の教職員への調査からは、本事業は**他大学の具体的な教学マネジメントを知り、それにより自大学の課題や可能性に気づく機会を提供**できたことが明らかとなりました。また、他大学の科目を履修可能にすることで、**より多様な学習領域を自大学の学生に提供**することができたり、他大学との交流から**学生同士が知的に刺激し合う良好な関係性を築く**ことに成功した事例もあることが分かりました。

一方、課題として学生および教職員から複数挙げられたのは**授業運営方法**でした。特にハイブリッド形式での授業は、入念な準備と万全な授業運営体制を伴わなければ学習者のモチベーション低下に直結するという意見がありました。また、学年暦など**教学マネジメント**における大学間の調整や、各大学での本事業および国際共修という学習方法の**学内認知度の向上**、そして国際化の取り組みを大学全体へと広げる**包括的国際化**を加速させる必要性などへの挑戦も挙げられました。

## 国際共修·学びのデータ1 「国際共修」のイメージは？

**国際共修に対するイメージを
あなたなりの言葉で表現してください。**

という質問に対する学生の回答を集計し、
頻出語についてワードクラウド処理しました。

| 対象者 | 回答数 |
|---|---|
| ICL-Channels連携大学に在籍し、2022年度前期·後期および2023年度前期の国際共修を取り入れた科目を履修した学生 | 266 |

注:質的研究ソフトNVivo（ver. 1.7.1）を使用。なお、英語による回答については、冠詞および人称代名詞、be動詞を集計から除きました。

### 頻出語トップ6

| 単語 | 出現数 | 重み付け% | 単語 | 出現数 | 重み付け% |
|---|---|---|---|---|---|
| 文化 | 69 | 2.77 | 授業 | 35 | 1.41 |
| 人 | 41 | 1.65 | people | 28 | 1.13 |
| 交流 | 36 | 1.45 | different | 26 | 1.05 |

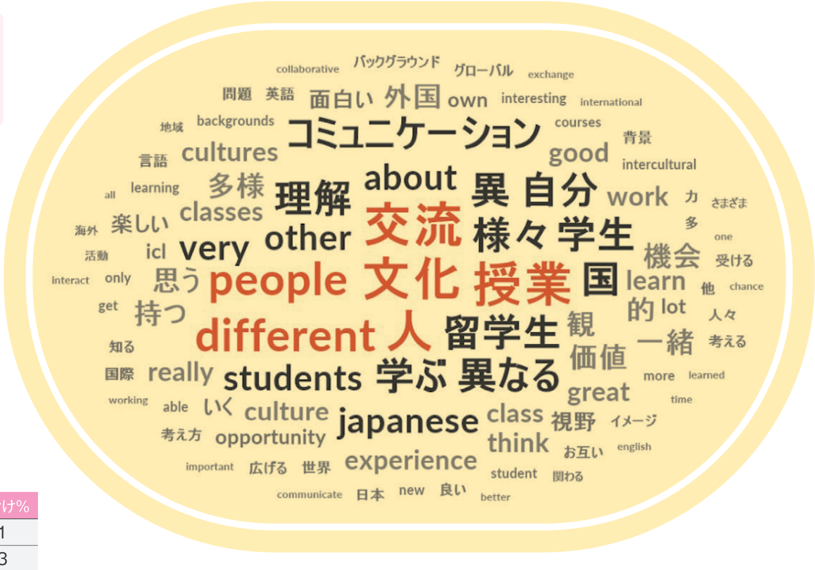



図 1. 履修者による「国際共修」のイメージに関する頻出語ワードクラウド

## 主な回答例

- 留学生をはじめ多様な文化背景を持つ他者と交流することで自分へ改めて価値観を問い直す授業。
- 実際に外国の方と触れ合い、本物の異文化理解、多文化交流を経験する。
- 学生同士のコミュニケーション中心の、自由で楽しい授業という印象。
- I always find it fun and interesting when working with people from different cultures and backgrounds, you always get a new view on things and perspectives you never thought about before.
- Try to understand each other though we have different backgrounds.

## 国際共修·学びのデータ2 国際共修で身についた力

「国際共修で身についた力は？」という質問に対する自由記述のカテゴリー分析では、「多文化事態での効果的で適切なコミュニケーション力」であるという主旨の回答が突出して高い結果となりました。次には、相手の考えや価値観などを知ったときに即断せず理解しようとする姿勢（オープンネス:判断を保留する姿勢）、多文化事態で学習者の間に言語運用力の違いがある際の、相手に伝えようという意思をともなう言語の使用（社会言語的な気づき）が続きました。

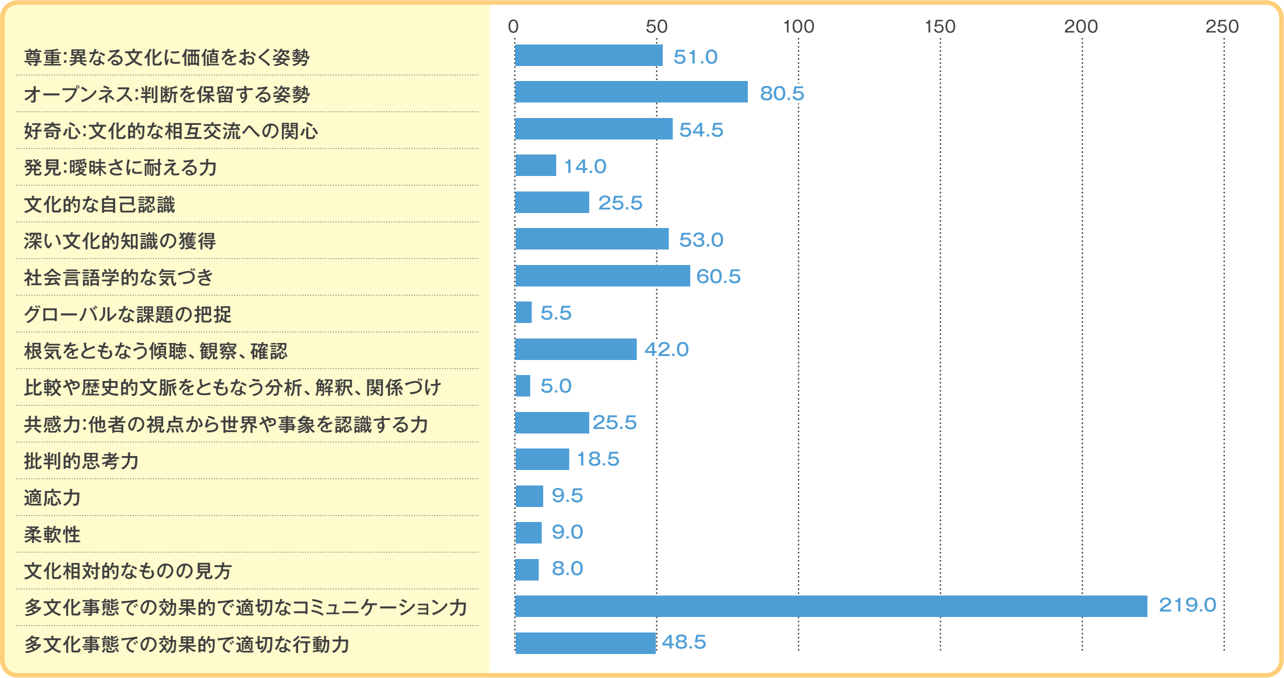



図2. 国際共修により身についた力（自由記述分析）

※「国際共修·学びのデータ1」および「国際共修·学びのデータ2」のデータ出所は、科学研究費助成事業課題「ニューノーマルを先導する国際共修の新展開と質保証」（22H01021）です。

## 主な回答例

### 多文化事態での効果的で適切なコミュニケーション力

- 自分の意見を主張し議論に参加する力。
- To be able to communicate with other cultures and understand their point of view.

### オープンネス:判断を保留する姿勢

- 異文化に対して先入観を持たずに対応しようとする力。
- Trying to understand other people at first without judging them, even though their view on things might differ from mine.

### 社会言語学的な気づき

- 日本語が母語でない学生にとって分かりやすい日本語で話す力。
- The ability to speak in different languages.

| 対象者 | 分析対象データ数 | 分析方法 |
|---|---|---|
| ICL-Channels連携大学に在籍し、2022年度前期・後期および2023年度前期の国際共修を取り入れた科目を履修した学生 | 422 | Blair(2017)による、Deardorff(2006)の多文化間コンピテンスプロセスモデルの構成要素分析チャートを、本分析用に一部調整し17カテゴリーを作成した。そのうえで、各回答を2名の分析者が分類した。2名の分析者の両方が分類したカテゴリーを1、どちらか1名が分類したカテゴリーを1/2として数値化した。 |

Blair, S. G. (2017). Mapping intercultural competence: Aligning goals, outcomes, evidence, rubrics, and assessment. In D. K. Deardorff & L. A. Arasaratnam-Smith (Eds.). *Intercultural Competence in Higher Education: International Approaches, Assessment and Application* (1st ed.). Routledge.
Deardorff, D. K. (2006). Identification and assessment of intercultural competence as a student outcome of internationalization. *Journal of Studies in International Education,* 10(3), 241-266.

国際共修・学びのデータ3

## 国際共修での学習スタイル

「どのような学習により上記の力が身につきましたか?」という質問に対する自由記述を分析したところ、個人での学習活動よりグループでの学習活動、特に、授業内でおこなう学習者同士のディスカッションが最多回答となりました。また、グループプレゼンテーションを作り上げていく活動の過程も能力の伸長に貢献したようです。

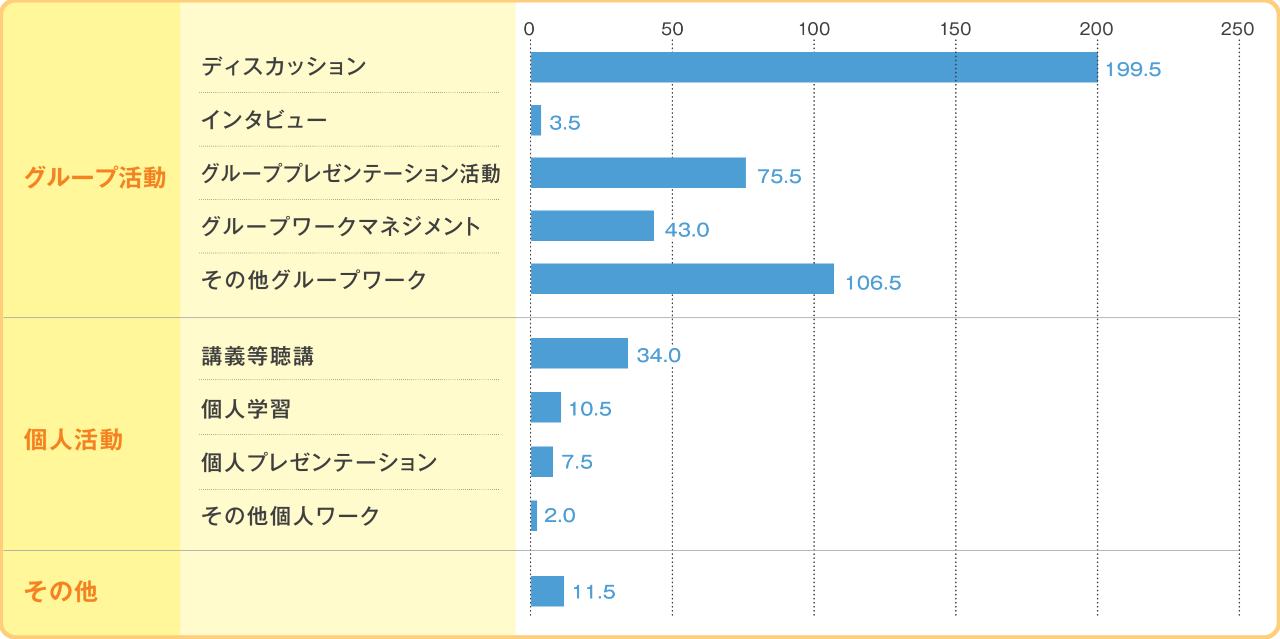



図3. 国際共修により身についた力を得た学習活動(自由記述分析)

| 分析対象データ数 | 分析方法 |
|---|---|
| 398 | 自由記述を分類するにあたり、グループ学習活動と個人学習活動について全部で10カテゴリーを作成したうえで、各回答を2名の分析者が分類した。2名の分析者の両方が分類したカテゴリーを1、どちらか1名が分類したカテゴリーを1/2として数値化した。 |

※「国際共修・学びのデータ3」のデータ出所は、科学研究費助成事業課題「ニューノーマルを先導する国際共修の新展開と質保証」(22H01021)です。

# 学生の声

## ICL-Channels 経験者インタビュー

ICL-Channels連携大学の国際共修授業を履修した学生たちに、国際共修での学びの体験についてインタビューをおこないました。

## Q1 なぜICL-Channelsの国際共修授業を履修しようと思いましたか?

「授業のテーマに関心があった」、「多様な文化的背景をもつ仲間との学びを経験したかった」、「交換留学に行く前の準備と考えた」、「他大学の授業を体験したかった」、「高校生の頃から感じてきた地域社会の問題を深く考えるため」など、学習者それぞれに様々な理由がありました。

**A**

“My major is in business and management and personally I'm also interested in learning about different cultures so that's why I took those classes.”（東北大学・留学生3）

「僕は国際関係が一番興味があるので、いっぱい国の友達を作りたいと思って。」（神戸大学・留学生1）

“I think for me personally the main thing was that chance to have that intercultural class with people from all sorts of backgrounds, all sorts of cultures and get to know them and just meet a lot of new people and learn a lot of new things.”（福島大学・留学生2）

「交換留学に行くことを計画していたので、自分の英語力ってのを実際の講義で使っていった方がいいのかなっていう風に考えて。それが一番の大きな動機になりました。」（福島大学・国内学生2）

「実際に海外の方としゃべるっていう授業だったので。交流してみたいなと思って、取ったっていう感じ。」（神戸大学・国内学生1）

「シラバスを見た上で、日本人と、日本人だけでなく外国の方と交流できるっていうのが、魅力的。」（神戸大学・留学生2）

「他の大学の授業を無料で受けれるっていうのが、魅力に感じて。」（福島大学・国内学生1）

“I decided that it would be a wonderful opportunity to get the experience of a class in another university …（中略）…I felt that it was a very good opportunity for me to learn something outside my scope of academia.”（東京外国語大学・留学生1）

「[私の地元では]ここ10年ぐらいたくさん外国人労働者の方が移住してきていて、…（中略）…なんか日本人住民との間に全然交流がないなって思ってて、…（中略）…高校では課題研究で両者の間にある壁をなくそうみたいなことを目的にやったんですけど、コロナの影響とかもあってなかなか思うような成果が得られなくて、それを機に多文化共生に興味を持ったので、将来そういう仕事もたずさわってみたいなって思ってるのもあって…。」（神戸大学・国内学生2）

## Q2 ICL-Channelsの国際共修授業について、率直な印象を聞かせてください。

ICL-Channelsの国際共修は、経験した学生にとって「インタラクティブな学習スタイル」や「学習者主体の授業形式」という印象があるようです。そして、授業では「自分の意見を伝えること」がしばしば求められたり、他者との意見交換をとおして「多様な考えを知る」ということが強く印象に残った学生もいました。

**A**

「自分が聞いたことについてたくさん考えて、自分の意見を出すように考えないといけいけなかったのは、本当に面白いと思いまして。」（東北大学・留学生1）

「ICL Channelsの講義は、座学よりも、やっぱりその、自分で考えないといけない部分っていうのは、大きかったので、そういった点で言うと…（中略）…交換留学先の講義のスタイルに、結構、似てる部分はあったなという風に感じました。」（福島大学・国内学生2）

“Yeah which I think was obviously very good in terms of the being able to communicate and let people like lead and do their own thing…（中略）…to obviously encourage that communication between the students and allow them to kind of work on their own ideas and kind of almost lead the class themselves at certain points.”（福島大学・留学生2）

“The major difference as I've said earlier is that the courses offered by the ICL program was very learner-based. It was very interactive because in my home university the classes are relatively large and so there is not a lot of time to have group discussions and there are a lot of topics to be covered.”（東京外国語大学・留学生1）

“[W]e had very many different perspectives.”（東北大学・留学生3）

「すごく家族的な、ということがあります。ファミリアというか。みんなも友達になりましたから。授業は安心してみんなで頑張るのはすごく楽しい。」（神戸大学・留学生1）

「僕自身海外に行ったことがなくて、外国人の方としゃべる機会もほとんど今までなかったので、毎週、いろんな国の留学生と話して、自分的には刺激になったというか、すごい面白かったなって思ってます。」**（神戸大学・国内学生1）**

「日本にいながら他の国の留学生とか、他の大学の日本人学生と一緒にコミュニケーションを取れて、話し合ったりして、学びを深めることができたの、すごくいい経験だったなっていうふうに思ってます。」**（福島大学・国内学生1）**

「やっぱり留学生の友達が増えたのが、すごい嬉しかったですね。…（中略）…専門科目と比べては、…（中略）…結構楽しく、嫌々にならずに楽しく授業してたって感じ…。」**（信州大学・国内学生1）**

「学生との交流が結構多いかなと思いました。学生も結構何か積極的に質問したくなる雰囲気…（中略）…を感じますね。例えば何か先生の質問に何か自分の感想があるときに、…（中略）…実は私はこう考えていますよと言い出す人はいますけどちょっとびっくりしました。本当になんかいい雰囲気。」**（信州大学・留学生1）**

## Q3 国際共修を取り入れた授業で、自身の学びの変化を感じましたか？

他者との価値観の違いを実感したうえで、自身の価値観が変わっていった様子や、物事に対する視野の広がりなどの自己の内面的変化や、仲間の積極的な学びに触発されたり、授業で発言できるように予習をよくするようになったなどの、学ぶ姿勢の変化が聞かれました。また、相手からの意見を辛抱強く待つ姿勢を得たことや、相手に分かるような言葉使いや表現を意識するようになったことなど、コミュニケーション方略における変化なども挙がりました。

**A**

「正直大変なことの方が多かったんですけど、この授業受けて自分の価値観が変わったなみたいなのはすごい思います。」**（神戸大学・国内学生2）**

「グループワークをする時とかに、他の国の留学生と話すことあったんですけど、みんなこう、結構はっきり自分の意見言ったりとか、積極的に発言してる姿を見て、本当にもう自分もついていくのに必死になって。すごい大変だったんですけど。でも、自分の意見を言うっていうことを経験する大事な機会だったのかなって思います。」**（福島大学・国内学生1）**

「他大学の国内学生、国際関係に興味持ってる国内学生と知り合えたっていうのも自分の中で大きくて…（中略）…日本人は積極的じゃないみたいな感じで言われがちだと思って自分の中でもそういう印象があったんですけど、ICLの授業の他の国内学生って積極的に取り組んでいて、日本人だから、じゃなかったんだ。日本人だからっていう概念が、自分の中で消えて、こういう人もいるんだみたいな、日本人だけどこう考える人もいるんだとか…（中略）…自分の大学内だけでは出会えなかったような人たちと出会えたことが一番大きかった。」**（信州大学・国内学生2）**

「全部のアジアの国々はそんな感じですと言ったら、もう、なんか、絶対に正しくないでしょ。…（中略）…どうしてなのか、なぜかなと、思うようになりましたから。」**（東北大学・留学生1）**

“[T]he language. Because in my home university I don't have to think about that very much because everyone speaks fluently even better than me…（中略）… but here I have to be more considerate. I think I have to speak a little bit slower and make sure that they get what I mean and make sure that I also understand what they're trying to say and also try to include them in the discussion because I don't want to make them feel excluded.”**（東北大学・留学生4）**

“[W]hat I learned was that I try to be more patient and try to get to know them first better and then try to get their real honest opinion about or honest ideas about something.”**（福島大学・留学生1）**

「周りのみんなが積極的に発言したり、英語を流暢に使ってる姿を見て、前よりは少し積極的に自分から意見を述べるようになれたんじゃないかなっていうのはあります。」**（福島大学・国内学生1）**

“Before, in every class that I took, I just felt like all this is coming from lecturer or professor, that's okay, I don't need to think about anything. But, then taking the ICL classes, it has helped me to critically think about the information that I received and I tried to put my own thoughts or opinions, the information.”**（東京外国語大学・留学生1）**

「私結構これまで何か役を持つことが多くて、締め切りとか割とちゃんとしたい人だったんですよ。でも授業ミーティング内でこれ日曜日までにやろうねっていうのをみんなで話し合って決めても、全然みんなやってくれないっていうのが毎回続いて、…（中略）…でもやっぱりそれ、私がすごい気にしすぎてたなみたいなのは感じ始めて…（中略）…そういうのに対する価値観違うなっていうのは、一番学んだ気がします。」**（神戸大学・国内学生2）**

「例えばそれこそ、みんながリーダーシップ持って意見の主張が強かったりするとやっぱぶつかり合いっていうのも結構多くて、…（中略）…それを自分がストレスって感じる場面も多少はあったんですけど、でも、それも多分ICLを受けなかったら気づけなかったことだったと思うので…（中略）…それをどういうふうな考え方で乗り越えればいいのかなっていうのがわかったりして。」**（信州大学・国内学生2）**

「座学というか講義がメインの授業だと、どうしても受動的になってしまうというか、聞くだけで終わってしまって家に帰ってからその復習とか、やった内容を振り返るってのはあまりなかったんですけど。今回の[ICLの授業]だと、毎週、どうしてもディスカッションしないといけないっていう感じなので。うまく意見を言えるように、結構準備するっていうふうになって、そうですね、やっぱり議論メインの方が何か自分的にはすごいやる気が出たなと思います。」（神戸大学・国内学生1）

"I've learned in the way of international communication and interacting with people of different backgrounds. It requires an open mindset."（神戸大学・留学生1）

## Q4 ICL-Chennelsの国際共修で学んだ経験は、あなたにとってどのような意味がありましたか？

**A** 異なる考え方をたくさん聞いて自身の視野が広がったことや、異文化間環境での傾聴の大切さに気付いたことなどの答えがありました。また、国際共修での学びの経験が留学の意思へとつながったり、自身が描く将来のキャリアと関連づけた回答もありました。

「色々な国から来てる人がいて、…（中略）…全然違う考え方のとか、意見とかも聞くことは、すごく楽しかったです。…（中略）…考え方もちょっと、広がったと思います。」（東北大学・留学生1）

"[I]f it's something international or cross cultural you might stop for a second in terms of planning and think about how should I approach this to make it inclusive to how everyone thinks about or as best as possible how everyone kind of thinks or feels about certain things."（福島大学・留学生2）

「今回の授業を履修して、留学行きたいなっていう気持ちは結構強くなった…（中略）…いろいろ留学生とかしゃべって、今まで日本人だけが主にしゃべってきたんですけど、やっぱ他の国の人たちみんな面白いなと思って、実際に違う国に行ってみたいなっていう気持ちが、強くありました。」（神戸大学・国内学生1）

"I could understand how other people think differently. For me, this is very important because my dream is to become a diplomat. I want to become a diplomat. For me, it's very important to understand other points of opinions as well."（神戸大学・留学生1）

「将来、[都道府県名]で公務員をすることも考えているので、…（中略）…多文化共生に向けて、自分にできることを、今回の授業とかで学んだことを生かしながらやっていきたいって考えてて。」（神戸大学・国内学生2）

## Q5 国際共修での学びの課題は何でしょうか？

**A** 最もよく挙げられた課題は、オンラインやハイブリッド形式での授業設計でした。学生の学習成果を高めるためには、入念に授業準備をおこない、すべての学習者が平等に受け入れられていると感じられる環境作りが大切となります。また、履修学生の分布として、留学経験者や国際交流に慣れている人だけでなく、もっと広く日本の国内学生が履修することが必要だという指摘もありました。さらに、アクティブラーニングと座学での宿題量の違いについて触れた回答もありました。

"There I felt a bit difference because the online students. They were not as engaged because Sensei was standing in front of the class and he definitely trying to invite online students to speak up but usually the online students were a bit more quiet."（東北大学・留学生2）

"So to be honest I'm not a big fan of hybrid classes because the problem is you will always need someone who also is looking at the screen and everything. So this is very important in my opinion so that online people don't feel left out."（福島大学・留学生1）

"It was not a problem, but a difficulty to interact with somebody who is not here. Maybe if everyone was in Zoom, that's another thing. But if three people are here in presence, and just one person is left out, that can mean that this person is not being able to interact with the rest of the group the same way."（神戸大学・留学生1）

「もっと、他の日本人とか…（中略）…他の国から来てる人に、あえて、世界的な考え方が育つことができたら嬉しいと思う。」（東北大学・留学生1）

"I think in the regular courses I had two weekly readings per class, and for one of my ICL courses I had only one reading per two weeks and that was over. So there's quite a bit of difference between that. So I'm not saying that's a bad thing or a good thing, but it definitely got my attention as being a really notes…"（東北大学・留学生2）

## Q6 国際共修を取り入れた授業を、仲間や友人に勧めたいですか？

インタビューに応じてくれた学生の多くが、国際共修を取り入れた授業の履修を仲間や友人に勧めたいとしていました。その理由として最もよく挙げられたのは、自分と異なる文化的背景をもつ学生と共に学ぶという環境の豊かさでした。その他にも、自ら行動することで学びを進めるという主体的な学習スタイルや、語学力の向上を目指すことができる点、専門にとらわれない広い分野の学びが期待できる点なども挙げられました。

**A**

"Yes, I would. I think what is interesting about ICL courses is not only that you work together with students from other universities, but it's more general setting of the courses, and I feel like the ICL courses focus with much more on presentation and interaction in classes and in the group discussions. And learning by doing." **（東北大学･留学生2）**

"I think also often it's difficult for the Japanese students to open up so Japanese students who take the ICL courses are ready for talking to foreigners and they want to actually have conversations so usually it's better for both sides because sometimes it's a bit difficult as a foreigner to be a friend of Japanese students...（中略）...in those classes it was very nice because I had the opportunity to speak to many Japanese students which is a bit more difficult in the non-ICL courses so that was very nice. Definitely one of the biggest benefits I would say." **（東北大学･留学生3）**

「今まで履修してきた中で、ICL-Channelsの講義って、...（中略）...有意義な時間が過ごせる講義が多いなっていうふうに感じたんで。」**（福島大学･国内学生2）**

「自分の専門分野とか学部関係なく、他の大学の自分の興味のある授業を履修できるっていうのは、すごくいいなと思ってて。」**（福島大学･国内学生1）**

"It's okay to have like different kind of opinions. And I think it's important that you just reflect what you're learning. And so this is what in my opinion is important for me." **（福島大学･留学生1）**

"I definitely will recommend because in the ICL classes it's not just about learning something different outside the scope of your other course that you're taking, but it's also like the different people that you can meet from different parts." **（東京外国語大学･留学生1）**

「特に理系の学生に勧めたいですね。学年が上がっていくごとに本当に狭い分野でしか友達が作れなくなってくるっていうのが、理系学生の悩みだと思うので、...（中略）...やっぱり理系も英語は必要っていうか、海外の人といろいろ討論する場面が多くなると思うので...（中略）...英語を使って、いろんな人と意見を話し合うっていう形式で。」**（信州大学･国内学生2）**

「他の大学の授業を受けられるっていう機会なかなかないと思うので。」**（信州大学･国内学生1）**

「大体の人はずっと日本で育ってきて、日本人だけのコミュニティしかないっていう体だと思うので。やっぱり僕も、海外の人としゃべるのは新鮮だったので、みんなに経験してほしいなっていうのは思ってます。」**（神戸大学･国内学生1）**

「勧めたいと思います。理由としては自分的にもすごい価値観が変わったっていうのがあるし、...（中略）...半分が留学生っていう環境が自分的に、勉強にもなったし、話してて楽しかったので、なかなかそういう授業ってないと思うから、非常にいい経験になると思ってます。」**（神戸大学･国内学生2）**

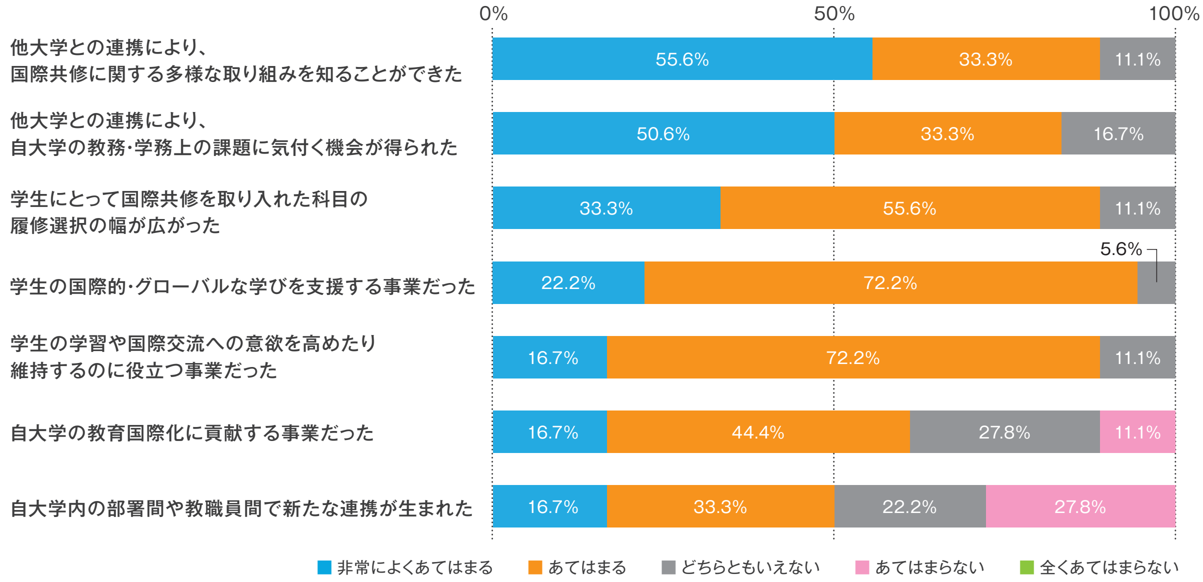
「私が友達から聞いた他の大学ではあんまり[このような形態の授業が]なくて、あってよかったなって私は思っていますので、ぜひみんなにもしてほしいと思います。」**（神戸大学･留学生1）**

# 連携大学の声

本事業の成果と今後の課題を得るため、連携大学の教職員を対象に質問調査をおこないました。各大学で肯定的な意見が多く、教職員や学生にとって実りの多い取り組みであったことがうかがえます。挙げられた課題については、改善を目指し今後もさらに考えていきます。

| 調査方法と調査期間 | 回答者 |
|---|---|
| オンライン調査／2024年1月11日〜1月26日 | ICL-Channels事業参加6大学の教員8名、職員10名（課長級以上3名、事務担当者7名） |

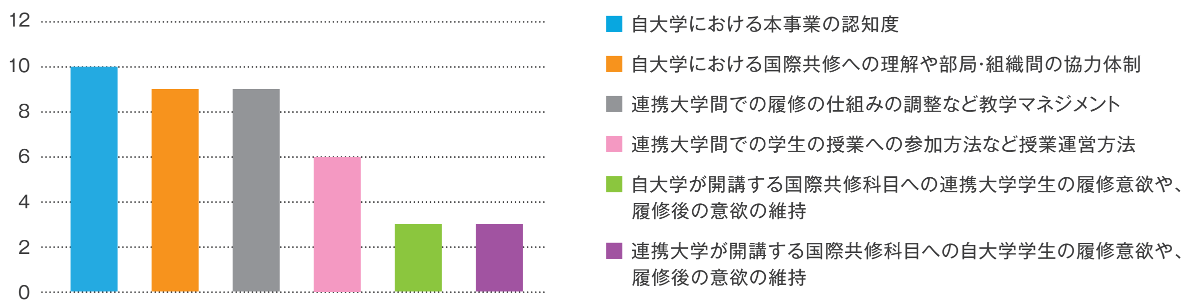
## 本事業の実施により得られた成果




### その他の成果（自由記述）

- 他大学の教育国際化の取り組みの詳細を知り、それら多様な取り組みとのシナジーを得るために多方面にわたり多様なメンバー（教員職員含めて）と検討することができた。
- 留学生、日本人学生の双方が交流のきっかけを欲しており、ICLの授業がそれを提供できた。
- 他大学での取り組みや授業に対する姿勢等、在籍大学とは違った雰囲気での授業履修が、学生のモチベーションにつながった。

## 本事業の実施により見られた課題（最大3点まで選択可）




### 挙げられた課題の具体的な内容

- ハイブリッド形式やオンライン形式での授業運営には今後も検討を重ねなければならない課題が残されていると思われる。
- 連携大学間での学事暦·セメスター/クオーター制·時間割の違いなどが履修生の増加になかなかつながらない。
- 学内運営体制や従来の慣例が根強く残り、短期間で改善することができないため。